

皮膚糸状菌症の治療に必要なこと「CCATS plan!」

- ❖ 皮膚糸状菌症は弱齢や免疫力の低下した猫や犬で認める皮膚病です。
- ❖ 真菌(カビ)の一種である皮膚糸状菌が原因で、動物同士でも伝染しやすく、お家などの環境も汚染し、ヒトにも伝染する可能性があります。
- ❖ 診断や治療評価が難しく、中途半端に治療を止めると再発しやすいです。
- ❖ より早く治すためには、飲み薬だけでなく外用薬の使用や、お部屋を分けたり、家庭環境の消毒などが必要です。

1. Confinement: 隔離

- 今後の環境汚染を防ぎ、掃除を簡単にするために隔離は大切
- 隔離期間を短くするためにはCCATS planの全てが重要

同居動物の感染状況はチェックしたか(感染があれば同時に隔離する必要がある。)	Yes / No	<input type="checkbox"/>
同居動物がいる場合、培養検査が陰性であっても一度は抗真菌シャンプーで洗浄する	Yes / No	<input type="checkbox"/>
隔離するための部屋は確保できるか?	Yes / No	<input type="checkbox"/>

2. Cleaning: 掃除

- 生活環境(お家の中)の除菌を計画的に行うことが重要
- 消毒液も大切だが、物理的にしっかり洗い流すことが最も重要
- 環境中の菌が動物やヒトに感染することは多くないようである

トリプル洗浄は理解した?(掃除機など→洗剤によるしっかりとした洗浄→塩素消毒)	Yes / No	<input type="checkbox"/>
トリプル洗浄は週に何回やる?(やらない日は消毒のみでOK)	1回 / 2回	<input type="checkbox"/>
消毒液は何を使う?(10:10倍塩素、100:100倍塩素、AHP:加速化過酸化水素)	10 / 100 / AHP	<input type="checkbox"/>
ベットカバー、敷物、衣類は? (洗濯機で2回ほど洗う、可能であれば100倍希釈塩素で30分ほど浸漬すると安心)	洗う / 捨てる	<input type="checkbox"/>

3. Assessment: 評価

- 治療反応を確認するために定期的な評価が必要

評価の間隔はどうするか?(短いほうが早く治療も終わる可能性) ※病変の有無、ウッド灯検査、真菌培養を評価(2回連続真菌培養陰性なら治療終了)	1週間 / 2週間 / 1ヶ月	<input type="checkbox"/>
---	-----------------	--------------------------

4. Topical therapy: 局所療法

- 被毛先端には飲み薬は作用しないため、局所療法は必ず必要
- 患者の状態によっては剃毛する必要がある

剃毛は必要?(毛玉、長毛、広範囲、難治性)、剃毛する場合は?(全身、局所)	しない / 全身 / 局所	<input type="checkbox"/>
シャンプーはできる? 何を使う?(マラセブ or その他)	商品名:	<input type="checkbox"/>
外用薬は塗布できる? なめない工夫は?(ローション剤 or カラー)	Yes / No	<input type="checkbox"/>
何を使う?(テルビナフィン、ミコナゾール、ケトコナゾール・・・) ※吸収や舐めてしまう可能性もあるので、健康状態や口腔内潰瘍などをチェック	商品名:	<input type="checkbox"/>

5. Systemic therapy: 全身療法

- 飲み薬による全身療法は治療期間短縮のため有用
- 時に副作用を伴うため、適期的な血液検査が必要

どの飲み薬を使う? 投与方法は?	商品名:	<input type="checkbox"/>
普段の健康状態に気をつけ、定期的(2週間~1ヶ月)な血液検査をできますか?	Yes / No	<input type="checkbox"/>